

1. 基本情報

評価対象年度 (29 年度)

施策コード	124		施策名	郷土文化の保全・継承				
将来像	1	安全でうれしいのある暮らしができるまち(「暮らし」の分野)						
まちづくりの基本目標	12	生きがいを持って文化的に生活できるまち						
主担当部	教育部長		主担当課	郷土博物館		主担当係	事業係	
担当者	石川 智裕		役職	教育部長		内線	321	
関係課	市史編さん室							

2. 施策の方向

10年後の姿	清瀬の歴史への理解が深まり、誇りと愛着が生まれています。また、次世代に清瀬の歴史と文化が継承されています。							
施策の方向性	1	市民が郷土文化にふれ、清瀬への愛着と誇りを高める環境を整備します						
	2	市の歴史や文化を次世代に継承します						
	3	学校教育での郷土博物館の資料や人材の活用を推進します						

3. 構成事業の状況

(単位:千円)

No.	事務事業名	実行計画	施策の方向性	担当課	平成28年度決算	平成29年度決算	平成30年度予算
0102010817	市史編さん事業	対象	2	市史編さん室	6,626	7,787	8,072
0110050302	博物館協議会事業		すべて	郷土博物館	112	150	56
0110050303	博物館施設維持管理事業	対象	すべて	郷土博物館	33,957	19,107	61,322
0110050305	博物館事業	対象	すべて	郷土博物館	2,635	3,874	2,415
0110050321	特別展事業	対象	1	郷土博物館	899	6,143	1,220
0110050602	文化財保全事業	対象	すべて	郷土博物館	880	357	271
0110050603	埋蔵文化財事業		すべて	郷土博物館	910	20	320
0110050604	旧森田家運営管理事業	対象	すべて	郷土博物館	888	962	672
総事業費(施策の合計)					46,907	38,400	74,348

4. まちづくり指標

指標情報					平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成32年度	平成37年度	
①	名称	郷土博物館入館者数			目標値	47,000	48,000	53,000	56,500	60,000
	説明	郷土博物館年間入館者合計数	単位	人	実績値	54,379	52,611			
	抽出方法	来館者カウンターによる人数			達成率	115.7%	109.6%			
②	名称	市の歴史や伝統文化、文化財等に関心があると思う人の割合			目標値	—	—	—	53.0	55.0
	説明	同上	単位	%	実績値	—	51.8			
	抽出方法	市政世論調査(平成29、32、35、38年度実施)			達成率	—	—			
③	名称	この一年で市内の伝統行事を見に行ったり参加したりしたことがある人の割合			目標値	—	—	—	68.0	70.0
	説明	同上	単位	%	実績値	—	66.0			
	抽出方法	市政世論調査(平成29、32、35、38年度実施)			達成率	—	—			

5. 評価(平成29年度実績に対する)

評価基準		評価※	評価理由
投入財源・成果 の状況「3. 構成事業の状況」「4. まちづくり指標」に対する評価	総合評価 (成果、投入財源等を総合的に評価)	維持	特別展事業では最先端技術映像展や林亮色鉛筆風景画展などで趣向を凝らした展覧会を開催し、多くの市民が来場する結果となった。歴史講座では近代から古生代までの清瀬の歴史を解説したシリーズを実施、特にシニア世代層に好評であった。さらに清瀬市在住の著名な芸術家でもある城田孝一郎氏の彫刻展示室を新たに開室するなど情報発信に努め郷土の魅力を広くアピールすることができた。また教育普及として恒例の事業である「年中行事」や「先人の知恵に学ぶ」を例年通り実施、加えて学芸員を講師として派遣する出前講座などを活用して清瀬の歴史と文化を伝承し、次世代につなげていく役割を担った。市史編さん事業においては、専門部会での編集委員による資料収集・調査を進め「市史研究きよせ」や「市史で候」の発行や、講演会などを実施して博物館資料や人材の活用を推進することができた。

※順調「10年後の姿」の達成に向け、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が順調に推移している
維持「10年後の姿」の達成に向け、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗に一部課題がある
停滞「10年後の姿」の達成に向け、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が遅れている

6. 施策を取り巻く環境

外部要因	状況	外部要因に対する評価	評価理由
市民ニーズの状況	市民が協力し、サポートできる事業の要望が高まっている。	3. 施策の必要性を高める	市民の力を借りて協働する新たな事業を構築し、企画する必要があるため。
将来人口の推移	少子高齢化が進行する。	3. 施策の必要性を高める	シニア世代向けや児童向けなど様々な観点からの事業の必要性が高まる。
他自治体との比較	市史編さん事業については、立川市・羽村市・府中市・小金井市・狛江市で取り組みを行っている。	1. 施策遂行に役立つ・有利	市史を編さんしていく上で、各市の取り組み方法が参考になる。
民間企業・NPO・市民の動向	博物館事業と同様の事業を行っている。	1. 施策遂行に役立つ・有利 4. 施策の必要性を低減する	同事業のサービスを実施している団体もあり実施の必要性が低下している。
法・制度改正の動向	平成30年1月29日付29庁財第576号文化庁通知により、公開の方法が展示物の大きさや展示作業上の安全性、機能性を考慮して設計されかつ温度・湿度管理のできる展示ケース内に入れて展示するよう指針が出された。	2. 施策遂行に不利	郷土博物館における展示方法についての見直しが必要となるため。
技術革新の動向	インターネットの活用(博物館単独ホームページの開設)。	1. 施策遂行に役立つ・有利	大容量のデータの活用が可能になるため、博物館情報の発信に役立つ。
その他	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催による外国人観光客の増大が見込まれる。	3. 施策の必要性を高める	市への外国人観光客が極端に増大することは考えづらいが、外国人も楽しむことができる事業の企画は今後必要となる。

7. 施策を進める上での課題

①	施策を進める上での課題	特別展事業による展覧会開催には質の高い着眼点と知見が求められる資料収集や展示物調査が必要となるが、限られた予算の中で行うことでの限界もあるが、その状況下でも最大限の効果を上げることが求められている。		
	関連する事務事業名	特別展事業		
	現在の取組状況	専門的な知見や立場による資料調査を実施している。		
	平成31年度以降の取組	学芸員有資格の職員を中心に多方面での研究会やシンポジウムに積極的に参加するなど情報収集能力を高めていく。		
②	施策を進める上での課題	博物館事業では少子高齢化の進行による対応策の検討が必要である。博物館の事業内容を児童向け、一般向け、高齢者向けとそれぞれを対象とした事業を個別に企画し事業展開することが求められる。		
	関連する事務事業名	博物館事業	文化財保全事業	埋蔵文化財事業
	現在の取組状況	歴史講座のシリーズ化や、文化財を主に取り上げているテーマ展示の各回ごとの関連講座を開催している。かるた大会など小中学校と連携しながら行う事業を構築している。		
	平成31年度以降の取組	歴史講座及び文化財関連講座の継続的な実施。博学連携での小学生かるた大会などを実施する。		

	施策を進める上での課題	博物館施設維持管理事業では、改修が必要な箇所が多いが、限られた予算内で優先順位をつけて優先度が高い順に改修する必要がある。		
	関連する事務事業名	博物館施設管理維持事業		
③	現在の取組状況	平成30年度は郷土博物館の外壁等の改修工事を実施している。		
	平成31年度以降の取組	老朽化している博物館内施設を、優先度が高い順に改修工事を行う。		